夢と志【学校通信】

平成 25 年 7 月 18 日

第 52 号

西中の風

伊丹市立西中学校長

豊田　實

～『信頼と笑顔』毎日1,500の思いやりあふれる学校生活 ～

「地域のまつり」談笑する人々から想うこと

～大人同士のふれあいを見ながら
少年（こども）たちが育つ～

（7/13鈴原小地区夏まつりへ訪れて）

ボランティアの生徒たちは出店を手伝い楽しみました。出店を運営する皆さんは笑顔で迎えてくださいました。

地域のお祭りに行けば、たまたまということで多くの方と出会います。▼祭り会場（鈴小）で見事なバラ園を造り上げていた方▼生徒にお茶の作法を指導される方▼昆虫館で子どもたちに関わっておられる方▼長崎修学旅行の事前学習でゲストティーチャーとして語った方▼お互いの近況を話し太鼓を聴き踊りを眺めながら時を過ごします。

父親、母親も加わり話題も豊富になります。部活動の競技大会が目白押しに開催されているので、生徒たちが競り合って優勝したことや、惜しい試合だったこと、観戦されて感動したことなどそれぞれに思いを出し合います。そして、ご家族が夏休みに計画していることもまたとない楽しみとして話されます。これらの大人の思いが子どもたちを育てているということなのでしょう。

本部テントへ笑顔で、「遊びに来ています、こんにちは」と、気が付くと生徒たちは次々とやってきます。日常、改まって来校された方にはどのような場面であってもアイコンタクトして笑顔で「もてなす」ことができるよう自信をもってください、と生徒に教えていますので、こういった自然に身についたふるまいはたいへんうれしいことです。多くのご家庭から地域の方たちが集う場には安心して楽しんでおいでと送り出されていることがうかがえます。また、夏はご家族が里帰りする季節という側面もあります。親子で、ご家族で、お祭りに来られていたり、お孫さんを胸に抱いて幸せいっぱいを感じておられたりする姿にもやすらぎを感じました。このように「祭りは幸せをギュッと詰めて過ごす場なのでしょう」。少し照れながら現れた卒業生、在学期間中の悩み多き生活が遠い出来事のようにも感じました。本部テントまで、にこやかにあいさつに訪れた彼の姿に万感胸に迫るものがありました。

出店を手伝う生徒たち